



この街が好きだから

## 武蔵野スケッチ物語

絵と文  
大須賀一雄

95

見慣れた風景も、絵になるとちよっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

### 武蔵野中央公園にて

私は若い頃から好奇心旺盛で、趣味の数も多い方だと思ふ。英語、絵画（この2つは仕事になつてしまったが）、ほかに卓球や手品はかなり力を入れてやった時期がある。そして最近、新たなことに挑戦を始めた。囲碁である。

先日、近隣の囲碁同好会の幹事の方と話す機会があり、それをきっかけにコミュニケーションで打つこととなった。これまでも興味は持っていたものの、ニュースで見たり、子どもが囲碁のゲームをするのを眺めたりという程度で、碁盤に向かい合つて打つたのは初めて。やつと念願が叶った。相手の方も初心者だったので、経験者のアドバイスを受けながら約2時間、対局をさせていただいた。

囲碁を本当に楽しむのはまだまだ先のことかもしれないが、日本の代表的な文化である囲碁を始めたことで、人生に潤いが増えた気がする。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。